

心の教育実践センター主催
第2回「心の教育を考える」シンポジウム 復伝
PAフォーラム 実践から見る体験学習を生かした学級づくり
～フルバリュースクール（個人とグループが尊重される学びの場）を目指して～

体験学習を使った様々なアプローチが学級づくりや集団づくりにおいて一般的になってきました。このアプローチは、先生方の創意工夫と努力により、生徒の社会面や情緒面の発達を促すねらいで実践的に行なわれています。

玉川大学学術研究所 心の教育実践センターにおいて、全国各地で”PA”の手法に代表されるアドベンチャープログラムを応用して学級づくりを実践されている例を元に、フルバリュースクールを目指したプログラムを考えるシンポジウムが開催されました。

実際のプログラムづくりや実践から得た貴重なヒントを共有し、より効果のあるアドベンチャー教育のアプローチを考え、実践に生かす場となりました。

日時：平成19年10月27日（土）10：00～18：30（開場9：30）

場所：玉川学園 低学年校舎 中央ホール

プログラム：

開会の挨拶とねらい

- ・「つながりを大切にしたい」(Katman)←カラビナを用いて
「道具はその使い方を知らなければ、その価値は分からない」という暗喩

特別講演 「脳と教育」

玉川大学脳科学研究所 准教授 星 英司氏

教育とは何か～父兄の立場から～

- ・コミュニケーションを通じて、脳の中に行動規範を形成する。
- ・Mentor(メンター)との出会い
 - (1)Mentor at home(父母)
 - ・良い言動→褒める。悪い言動→叱る。善悪の区別
 - ・岐路に立つ時のアドバイス
 - (2)Mentor at school(先生)
 - (3)Mentor afterschool(スペシャリスト)
 - ・スポーツクラブの監督、コーチ、先輩
 - ・そろばん、書道教室の先生 ←1つ道を極めると素敵な個性が表れる。
 - (4)Mentor at lab(研究室)
 - ・丹治 順 教授 ←温和。科学者としてあるべき姿を態度で示している。
 - ・Strict 教授 ←厳しい。科学者としての確かな示唆。
 - ・Colabrators ←同年代や年下の考え方

教育は、学校だけではなく、家庭、地域などの文化活動を通じて行うこと

危惧

- ・ゲームによるコミュニケーション不足
- ・受験の低年齢化 →良いMentorとの出会いを無くす。
- ・マスメディアによる情報の垂れ流し

アメリカについて思ったこと(ユダヤ人の学校)

- ・子どもたちにしつけを教える。→協調性、社会性、道徳
- ・子どもたちに興味をもたせる学習課題。
- ・スポーツクラブ、音楽活動の充実。
- ・大人文化と子ども文化の明確な分化→子ども番組は18:00までで終了。
- ・大人はMentorという立場→大人をrespect(尊敬)

学校は子どもの教育に関わるごく1部であるが教師は良きMentorである必要がある。

教育とは何か～科学者の立場から～

- ・行動規範を脳に形成するととらえることができる。←サルを使った実験から
- ・形成過程において、良いMentorとのコミュニケーションが鍵。

Q「行動規範が形成されていない児童・生徒に対してどう対応していけばよいのか？」

- ・問題点がどこにあるのかを追求する。→それぞれの立場でできることをする。
- ・3歳までに基本的なしつけをしていく。→褒めて、褒めて育てる。

発表(1)「豊かな心は確かな学び」

岩国市立装港小学校教諭 宮川美子氏

- ・教職員全員で目指すこどもの像を考える。←それを目指して教職員が変わっていく。
- ・地域と学校の協同
- ・全ての活動がAFPY←全ての体験を日常化して応用していく。
教科教育の中で子どもたちのかかわりを持たせるような仕組み。
- ・フルバリュースクールフラッグ「ああああ!!」

発表(2)「tapにおける取り組み」

玉川学園低学年教諭 登優紀子氏

玉川大学学術研究所 心の教育実践センター 指導員 戸塚智子氏 板橋綾子氏

- ・活動前後のエネルギーチェックを数値化し、活動後の児童の感情の変化を記録する。
- ・児童へ「～しないで。」と否定的ではなく、「…しようよ。」肯定的に投げかける。
- ・日常的な遊びの中で子どもたち同士でtapのアクティビティを取り入れている？

発表(3)「中学校での実践、取り組み」

香美市立大柘中学校教諭 矢田幸嗣氏

- ・荒れた中学校の再生←PAの取り組みを少しずつ取り入れる。粘り強い取り組み。
- ・自分の感情に気づく場面設定←「感情曲線」「絵文字」「数値化」など
- ・ビーイングの活用→目標設定：個人と集団の意識化を促す。

発表（４）「ともだちいっぱい～３６人の子ども達から学んだこと～」

北九州市立西小倉小学校教諭 井上恭子氏

- ・学級目標を常に意識化する。→朝の会での動作化(五感をフル活用)
→活動後のふりかえりで
- ・帰りの際、音楽(学級でのフルバリューソング)をかける。

発表（５）「アドベンチャー教育で『自分づくり・学級づくり』」

桐生市立境野小学校教諭 小暮昌子氏

- ・フルバリューソング←学級に合った温かい曲
- ・学級目標を作る前に種を蒔く。
例)昨年度１年生 フルバリューの言葉の入った絵本の読み聞かせ
- ・グループ学習 発言ができる環境→話し合いができる環境。
目標設定←SMART GOAL
- ・日常のハプニングを待つことは、時には時間のロスになることがある。
→伝えたいことを効果的に伝える手段として、アクティビティを活用する。
- ・日常のハプニングの後、アクティビティをすることで、伝えたいことを強化できる。

いかに自分たちの生活に置き換えることができるかが大切

実生活の中で行動化できるよう、意識して声をかける。

- ・保護者との連携
 - ①学級懇談会(４月)でアクティビティを活用→保護者同士の人間関係づくり
 - ②保護者版ビーイングを作成→学校と家庭で足並みを揃える。
 - ③学級だより→保護者を啓発。
- ・教師間の共通理解
 - ①年度初め 同学年で「カチッと５」(自分が生きている上で大切にしたいこと５つ)
「ビーイング」(子どもへの思い&教師の資質)
 - ②学年での共通理解→１学級１人ではなく、３人で５年生１０５人を育てる。
 - ③９月末 ビーイングでふりかえり→後期に向けて修正
- ・日常の児童の「フルバリューコントラクト(FVC)」「チャレンジバイチョイス(CBC)」
「体験学習サイクル」に係わる活動を取り上げる。
- ・追跡調査 例)１昨年度６年生「あなたにとってPAとは？」

発表（６）「PAで学んだことを日常の学習に生かす

～チーム学習を大切にしたい学級づくり～

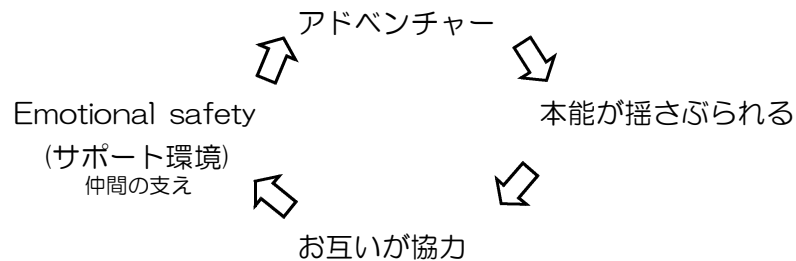
狭山市立堀兼小学校教諭 岩瀬直樹氏

- ・「キャベツはぎ」←男女が入り乱れて活動を楽しめる。
フルバリューの意識が低い集団では、うまくいかない例もある。
- ・「教室リフォーム大作戦」教室に自分たちでデザインした置の部屋などを創る。
←クラスへのオーナーシップを実感させるひとつの手だて
- ・掃除の工夫(どうしたら早くきれいにできるか?)
 - ①１学期に１つの場所を徹底的に改善→プロ意識

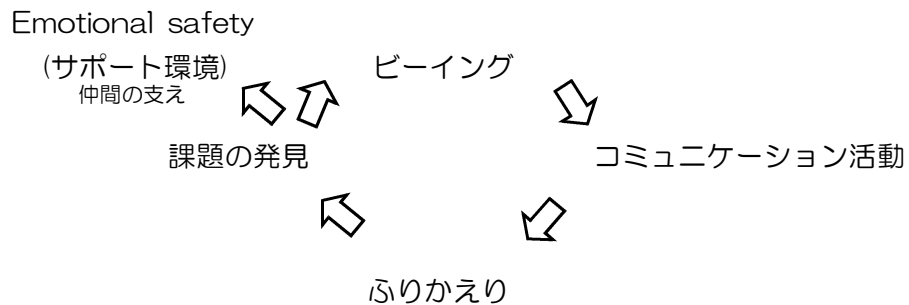
- ②あきるので、2週間に1度お互いの場所をフィードバック
- ・会社活動→同じの興味を持つ仲間同士で活動サークルを立ち上げる。
例)「大工会社」「ダンス会社」
- ・チーム学習
クラスづくりと授業を同じ価値観で、PAと日常の活動のサイクルを回す。
- ①リテラチャーサークル(読書サークル)
 - ・評価基準を子どもと一緒に創る。
 - ・金魚鉢スタイルでの活動(観察と発表者へのフィードバック)
 - ・ふりかえりをもとに改善する。(自分たちで意識すること)
 - ・ペア読書
- ②国語「作家の時間」←「ライティング・ワークショップ」を年間を通して
 - ・子ども一緒に学習指導要領を参考にしながら、年間計画を立てる。
 - ・読む人がたくさんいる作品を作る。
 - ・友だち同士で読み合い→フィードバック
- ③理科「水溶液の正体を探れ！」(1日6時間通し)
日常的に人間関係と学ぶ力を育てていきたい

講演 「学びのスパイラル再考ービーイングこんなのですかー」
プロジェクトアドベンチャージャパン代表 林 寿夫氏

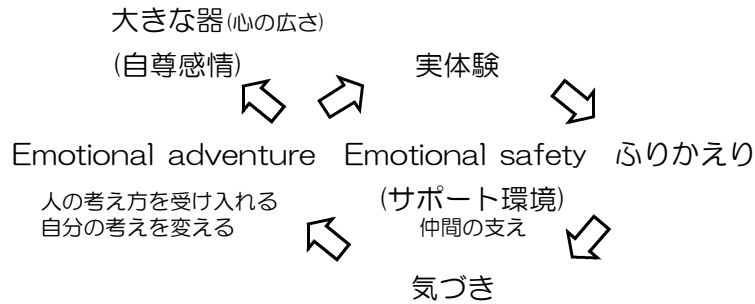
- ・3つのサイクル
- ①アドベンチャーのサイクル



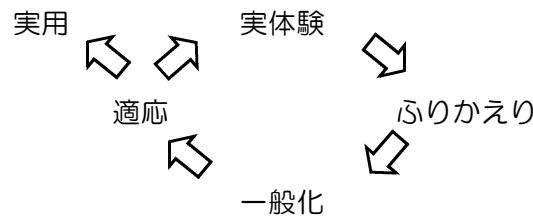
- ②ビーイングのサイクル



③個人の成長をめざす体験学習サイクル



④D.コルブさんの体験学習サイクル(一般)



①～③が螺旋状(歯車のよう)に噛み合っているのではないだろうか。

討議 「体験学習の有効性とは？ 実践に向けて」

玉川大学学術研究所 心の教育実践センター主任代理 難波克己氏

- ・実体験中にもプチふりかえりが起こっている。
- ・脳科学において、どうすれば学びを促進できるかがわかりかけている。

Q「先生方が変わらないと子どもが変わらない。

では、先生方が変わる以前はどんな様子だったか？」(佐藤さんからの質問)

その後、佐藤さん、発表者を囲んでのワークショップへ

「PAで学んだことを日常の学習に生かす～チーム学習を大切に学級づくり～」

狭山市立堀兼小学校教諭 岩瀬直樹氏(ゴリ)ワークショップ

- ・ PAは考え方 $\xrightarrow{\text{アクティビティ}}$ 日常生活
 $\xrightarrow{\text{学び方を学ぶためのステップ}}$ 学習生活
- ・ ①アクティビティをしたほうが学びが深まる子どもたち
- ・ ②アクティビティをしなくても学びが深まる子どもたち
- ・ ①と②違いは何だろう？(トトロ)
- ・ 豊かな人間関係を育てるために
 - ①年度初め「今までの人間関係に拘らないようにしよう。」と児童に呼びかける。
 - ②いろいろな人とかかわる仕組みを創る。
- ・ リテラチャーサークル(以後LS)の実施について
 - ①教科書は割合大事にしている。

- ←LSを教科書で実施している先生もいるが、量が少ないためあきることがある。
- ②年度初めに教科書や学習指導要領の目標を見て、年間計画を立てる。
- ③教科書を押さえなくても読解力は飛躍的に上がる。漢字を押さえればよい。

「PAなどについて聞きたいこと」

プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 杉村厚子氏 ワークショップ

- ・プロジェクトアドベンチャー(PA)
アドベンチャーの刺激とグループの力を活用して個人の成長を促す教育手法
- ・PAの考えるアドベンチャーとは
体のアドベンチャー、心のアドベンチャー
- ・フルバリューコントラクト(FVC)
PAの核となるなる考え方 Full Value Contract ←造語です。
全て 価値 契約
お互いを最大限に尊重するという約束←大きな抽象的なことなので、これを具現化するために、「ビーイング」「3つの約束」などをしていくことがある。
- ・アクティビティー→活動
- ・QU
学級満足尺度を知るためのアンケート←図書文化社にて販売
- ・詳しいことはプロジェクトアドベンチャージャパンのホームページへ
<http://www.pajapan.com>
- ・お薦めの本は「グループの力を生かす」みくに出版
PA理論+ゲーム(50個)を紹介

閉会の挨拶(Katman)

- ・道具(PA手法、体験学習サイクルの暗喩)には趣旨がある。拘りがある。効果がある。
→道具を何のために使うのか。なぜ道具を使うのか。
- ・知る。→ 行動する。→ 感じる。→ 理解する。
- ・子どもの力を信じる。→ 子どもの力を引き出すことができる。
- ・今、何を意識して生きているのですか？
- ・何を協力(同)の糧として進んでいくのか？

つながりを大切に

その他の用語解説

- ・SMART GOAL
目標をより具体的にすることによって、より現実味のある、達成可能なものにするこ
とを目指したもの。Specific=具体的に Measurable=測定可能な Achievable=達成
可能な Relevant=関連している Trackable=追跡可能な の頭文字をつなげたもの。
- ・チャレンジバイチョイス(CBC)
自分の参加の度合いと方法を、自分自身で選ぶことができるというもの。